



岡山県総社市 竹内 洋二さん

平成の大合併で誕生した新「総社市」の初代市長を務め、「無農薬で美味しいお米を作りたい」という思いから、辞職後は専業農家を始められた竹内さん。今年で5年目になる、お米づくりの話をご寄稿いただきました。

お米は天孫降臨の際、天照大御神より邇邇芸命（ににぎのみこと）が天上の「斎庭の稲穂」（ゆにわのいなほ）を授かって以来、現在に至るまで、日本人の食生活の中心として生命を支えてきた、日本人の命の源だと思えます。ちなみに、邇邇芸命は、高木神（たかぎのかみ）の孫に当たります。地球村の先祖かも知れません。

この神聖にして栄養バランスのとれた「米」を自分にも育てることが出来るでしょうか？

市長時代に「学校給食に、無農薬米を使って欲しい」と依頼した経緯があり、平

成20年春より、同じ育てるなら自ら無農薬米の栽培に取り組んでみたいと思い、「米」づくりを始めた次第です。

農業の経験はありませんでしたが、以前無農薬米を栽培している奈良県桜井市の川口由一さん宅へ、農業委員会の皆さんと共に勉強に行かせて頂いたことが、一筋の光明となり「竹内自然農園」をスタートさせるきっかけになりました。

最初は、田んぼを一枚だけ借りて、妻と二人で始めていましたが、すぐに仲間が集まって来て、同じやるなら、どこそこの田んぼも耕作してやろうと次々に言われ、「よっしゃ、よっしゃ」と引き受けていたら次の年には1ヘクタール。その次の年には4ヘクタール、その次は5ヘクタール半と増えていきました。こうなれば本格的に農機具も揃えなくてはならなかったのですが、金は天下の廻りもの。所有していた山林が老人ホームの候補地となり、売却しました。これで農機具を一式揃える事ができました。

そして一昨年、5ヘクタール半の田んぼで収穫したお米は、東北へ支援米として送り届けることが出来て、本当に農業、「米づくり」をしていて良かったと思います。高木代表を始め、地球村の皆さんに感謝しております。改めて皆様の行動に敬意を表します。

米作りを初めてからは、毎日が感謝の

日々です。化学肥料を使わず、農薬予防もせずに出たお米は、誠に美味しい！一口食べるごとに、有難さが身に染みる感じです。

友人の奥さんが「美味し過ぎて、幾らでも食べられるので困ります」と苦笑しています。我が家の孫も「じいちゃんの米は美味しい」と言うので、本当に美味しいのだと実感しております。(今年度、井関農機で食味検査をしたが、にこまる 79 点、朝日米 80 点と納得のいく結果でした。

(平均は 60 点台)

無農薬米の栽培は、春のモミ播きから秋の収穫まで約半年間、息を抜くことが出来ません。

種モミの消毒は食酢で行い、農薬は使いませんが、それだけに神経を使います。苗作りは米作りの大事なスタートとなるので、太く短くて病気にならない、丈夫な苗に仕立てます。苗が丈夫だと病気にならず、すくすく成長します。

大変なのは夏の炎天下での草取りです。重労働ですが、妻と息子と義理の兄夫婦と、友人達に手伝ってもらっています。大勢の人の協力に、感謝であります。透き通った清流が田を潤し土壌は細やかな砂質土の恵まれた環境にも感謝です。



近所を流れる清流。水がとても美味しいです。

もう一つの感謝は、土づくりのために田んぼへレンゲを播きます。春には田んぼ一面、レンゲの花であふれます。これを見ていた友人より、「蜜蜂を飼ってレンゲのハチミツを取ったら」とアドバイスがあり、一昨年より蜜蜂を 2 箱譲り受けて「養蜂」を開始しました。昨年、美味しいハチミツが取れました。感謝です。



レンゲのハチミツ

考えてみると、私の「米づくり」は、多くの人に助けられて今日があります。川口由一さんを始め、地元の先輩の方々にも多くの事を教わりました。まだ農機具も持っていなかった頃、「本家の田んぼを耕作してくれてありがとう。良かったら私のコンバインを差し上げます」と、地主の分家のお嫁さんに小型のコンバインを戴いたこともあり、今も使わせてもらっています。感謝です。今年も多くの皆様に喜んでもらえるよう土づくり、米づくり、人づくりではなく、自分づくりに励んで参ります。皆様の御多幸をお祈りし、あわせて御指導、御鞭撻のほどお願い申し上げます。

竹内さんは、『地球村通信』2012年6月号のスペシャル対談にも登場いただいております。2012年6月号対談ページ <http://bit.ly/ULEprQ>